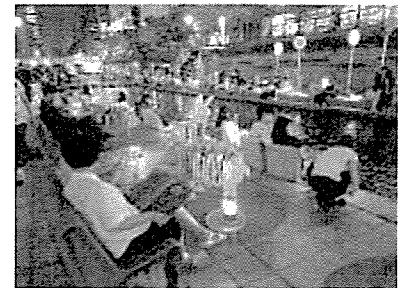


まちづくり活動計画書

1 助成を受けようとするまちづくり活動について

団 体 名	熱田水辺とまちルラボ
まちづくり活動名	夕暮れ『水辺とまちル？』
活動地域	名古屋市熱田区内（堀川・白鳥公園親水遊歩道）
活動の背景	（団体の立上げのきっかけや活動に至る背景をアピールしてください。） 韓国・清溪川で実施されている水辺の屋外図書館の取り組みに触れ、多くの人が水辺で読書や会話を楽しむ光景に感銘を受けたことが活動の原点である。 熱田地域にある堀川・白鳥公園周辺は、水面に近づく階段護岸や親水空間を有する魅力的な場所である一方、日常的な利用は限定的であり、その価値が十分に活かされていない。 こうした空間に「本」や「滞在」といった要素を取り入れることで、人が自然と集まり、思い思いに過ごしながらかわいが生まれる場へと転換できるのではないかと考えた。 本活動は、名古屋市内で水辺活用に取り組む団体「水辺とまちの入口研究所」を母体として始まった。試行的に実施した初回（2025年11月3日）は、同団体が主体となり賛同者を集めて実施。その後、賛同者による企画運営へと発展し、熱田地域で継続的な実践を行うため団体設立に至った。なお、両団体の構成員は代表以外に重複はない。
目的・目標	（活動の目的と、活動により実現したい目標及び成果を具体的かつ簡潔にご記入ください） ■ 目的 熱田地域の人々が堀川の水辺に親しみ、関わる機会を創出することで、水辺を身近で愛着のある存在へと転換する。 ■ 目標 ・堀川が「誇りに思える地域資源」として認識されること ・水辺で過ごす行動が日常的に見られる状態をつくること ・地域住民等による主体的な水辺活用の動きを生み出すこと ■ 成果 ・読書、遊び、交流など多様な水辺での行動（＝動詞）の増加 ・水辺への心理的距離の縮小と利用頻度の向上 ・堀川を愛着ある地域資源として捉える意識の醸成



韓国・清溪川の屋外図書館の様子



堀川・白鳥公園親水遊歩道の様子

活 動 内 容	(上記の目的、目標に沿って、活動内容や実施方法を、具体的かつ簡潔にご記入ください。) 名古屋市内を流れる堀川の熱田エリア（白鳥公園周辺）において、水辺に親しむ体験型プログラムを実施する。 具体的には、堀川の潮位変化により現れる親水遊歩道の浅瀬や階段護岸といった環境特性を活かし、本の貸出による自由な読書、浅瀬でのSUPや水遊び、ピクニックなどの滞在型の活動を展開する。内容を固定化せず、参加者の関わりに応じて新たな水辺の使い方を生み出すことを重視する。 これまでに試行的に実施（2025年11月、2026年4月）しており、今回申請する活動では、実施エリア及び時間を夕暮れまで拡大し、住民らにとってより自然な関わりしるを広げることにチャレンジする。 日常的な水辺利用がすすむためには、継続実施が必要と考えており、その方策を模索するため試行実施を重ねるものである。 また、地域団体（学区連絡協議会、まちづくり協議会等）や行政と連携し、公共空間の新たな活用方法を実践的に検証する場として位置づける。現在、対象地はアジア開発銀行会議に向けた改修工事を順次行っており、完成後には試行実施を踏まえた定期的な活用（河川空間のオープン化）を視野に入れて実施する。そのため、実施結果は記録・発信し、結果を積極的に行政と共有し、今後の継続開催および活用促進につなげる。	
活 動 予 定 期	2026年 6月 ～ 2026年 9月	
助成金交付申請額	50,000 円	※1回目（上限5万円） ※2回目、3回目（上限10万円）

2 まちづくり活動の視点

以下の視点で活動内容についてご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・活動の実施にあたって、まちづくり活動助成金が必要な活動か ・活動メンバーのみの趣味や仲間づくりではなく、多くの人に理解や共感が得られる活動か
(活動の必要性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) 堀川は地域にとって重要な水辺資源であるが、日常的な利活用は十分に進んでおらず、その価値が活かされていない。本活動は、水辺での体験機会を創出することで、地域住民の関わりを生み出し、愛着や誇りの醸成につなげるものである。 また、熱田神宮周辺で策定している「まちづくり未来ビジョン」においても、公共空間の活用が重要なテーマとなっており、本活動はその具体的な実践として位置づけられる。これまで2回実施する中で、地域団体（学区連絡協議会、まちづくり協議会）や行政（河川計画課、区地域振興課）との共催や協力など連携体制が整いつつあり、他団体との関係も広がり始めている。 これまでの試行実施では各100名を超える参加があり、「とてもゆったりした時間が過ぎた」「水辺で過ごすことが新鮮だった」といった声も寄せられている。堀川に対して距離を感じていた人々が、水辺で読書や交流を楽しみ、子どもたちが水遊びをする風景が実際に生まれており、本活動の必要性和可能性が確認できている。 さらに、地域の人々が水辺に親しみ、愛着ある場として認識し、水辺利用を日常として定着させるためには継続的な実施が不可欠である。今回申請する活動では、実施エリアおよび時間帯を夕暮れまで拡大し、水辺利用の可能性を広げる検証をする。これに伴い、夕	

暮れ時の安全性を確保するための照明機材の整備や、エリア拡大に対応した備品の追加が必要となる。これらの環境整備や運営体制の強化を試行的に実施し、持続可能な仕組みを構築していくために、助成金の活用が必要である。	
審査基準② 実現性	・活動内容が具体的にになっているか ・活動内容の資金計画などは妥当か ・人員や規模などは妥当か
(活動の実現性について、上記観点から分かりやすくご記入下さい。) これまでに試行的に実施(2025年11月、2026年4月)し、現地状況の把握や実施ノウハウ、運営上の課題を理解しており、着実な実施が可能である。 今回申請する活動はエリア・時間拡大にチャレンジする試行的な回と捉えており、試行と改善を繰り返し安全管理やプログラム充実の具体的な知見を蓄積していくもの。 具体的には、これまで日中の河川区域のみの活動であったが、今回申請する活動では公園区域までエリアを広げ、夕暮れ時まで時間帯を拡大して実施する予定である。行政手続きや準備事項が増えるが、これまでの実績を活かして段階的に広げるもので、活動規模や内容は現地条件に即した現実的な計画である。今後も段階的な発展を見据えている。 資金面については、参加費等の導入も含めて持続可能な運営方法を検討しており、本助成金はその検証段階として位置づけている。	
審査基準③ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・活動実施後に、地域のまちづくり活動にどのような波及効果を及ぼせるか
(活動の発展性について、上記観点から分かりやすくご記入ください。) 本活動を継続的に実施することで、水辺で過ごすことへの心理的距離が小さくなり、読書、遊び、交流など多様な水辺での行動を生み出す。水辺の利活用に対する地域の理解と参加が広がり、住民等の自発的な活動の創出や、水辺で過ごす行動が日常風景として定着することが期待される。 これまでの試行実施時には、堀川の水辺で子どもたちが遊び、読書や会話を楽しみながらゆったり過ごす風景が生まれている。それまで「近づくにくい場所」と認識されがちだった水辺空間に対する印象の変化が見え始めており、堀川を愛着ある地域資源として捉える意識の醸成につながっている。 また、本活動は公共空間活用の実験的取り組みとして、熱田神宮周辺地域の「未来まちづくりビジョン」の実現に貢献するものであり、エリア内の他地域への展開や、多様な主体との連携による発展、河川空間のオープン化を視野に入れて活動する。 水辺を核とした地域の魅力向上とコミュニティ形成に資する取り組みとして、持続的な広がりを目指す。	

3 活動にあたり他団体(町内会、自治会他)、企業、行政の部署など協力する又は調整を図る必要がある場合には、その名称と内容を記入してください。既に連絡等を取っている場合にはその日付も記入してください。

名 称	内 容
白鳥学区連絡協議会	共催の承認(4月24日)、回覧板でのチラシ配布(予定)
熱田湊まちづくり協議会	共催の承認(4月24日)
名古屋市河川計画課・河川管理課	開催概要の説明(4月6日)、後援名義(予定)
あつた宮宿会	開催概要の説明(4月13日)

※第2号様式は3ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

まちづくり活動の実施スケジュール

・活動の実施日だけでなく、それに向けた準備（団体の打合せ、広報）についても具体的に記入してください。

・1 ページにおさまるように記入してください。

年	月	活動項目	活動内容
2026	4		
	5	申請書提出 打合せ 関係先との協議	企画打合せ 地域・行政との内容打合せ
	6	打合せ 申請手続き 実施準備 助成決定後打合せ 実施準備	企画打合せ 行政手続き チラシ印刷（1 回目） 開催準備 企画打合せ チラシ印刷（2 回目）
	7	打合せ 実施準備 助成活動の実施 （7 月 11 日）	企画打合せ 開催準備 夕暮れ「水辺とまち」の実施
	8	打合せ 関係先への実施報告 SNS 発信	ふりかえり打合せ 地域・行政への報告と今後の展開打合せ SNS 発信
	9	関係先との協議 SNS 発信	地域・行政と今後の展開打合せ SNS 発信
	10		
	11		
	12		
2027	1	打合せ	次回開催に向けた準備
	2	打合せ 関係先との協議	次回開催に向けた準備
	3		

備考 用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

まちづくり活動の予算書

1 支出

計画書の活動における支出（予算）をご記入ください。

費 目 手引きの費目を参照		活動項目	内訳・算出根拠	金 額 (円)
まちづくり活動助成金（申請金額） ※活動経費の内、助成対象となる経費が対象です。 ※上限金額：1回目は5万円、2回目、3回目は10万円				50,000
活動経費の内訳	旅費交通費	準備・機材運搬	駐車場 500 円×6 台	3,000
	消耗品費	夕暮れ用備品	照明機器 5,000×2	20,000
		会場装飾備品	ガーデンライト 5,000×2	
			装飾用幟・ポール 5 組 9,000	12,000
		水遊び体験備品	会場装飾布等 3,000	
			文具等 3,000	3,000
	印刷製本費	チラシ印刷	4,000×2 回 ※採択決定前後の2回印刷予定	8,000
使用料及び賃借用		機材レンタル	発電機・消火器	4,000
		発電機燃料	テント・机 ガソリン 5 L 程度	1,000
保険料		イベント保険		4,000
支出合計				55,000

※1 ページにおさまるよう記入してください。用紙の大きさは、日本産業規格 A4 とする。

